

フランスで指導してきました

フェンシング部顧問、中村修先生がフランスで行われたフェンシング国際大会にコーチとして参加してきました。以下はその遠征記です。



1月30日から2月3日までの5日間、パリでフェンシングの国際大会(正式名称:Marathon fleuret2014)が開催され、私は支援コーチという立場で参加してきました。日本からは全国中学生大会で勝ち上がった男女各8名、合計16名が日本代表として参加しました。うち、男子の8名中3名は大分県の選手でした。

大会は2月1日(土)、2日(日)に行われ、ヨーロッパを中心に30数カ国、444名が参加した非常に規模の大きいものでした。試合の結果、男子は日本選手が優勝と3位となる大健闘をみせ、女子も5位入賞を果たし、2020年の東京オリンピックでの活躍を大いに期待させるものとなりました。

大会期間中、パリはあいにくの天候でとても肌寒く、時差(8h)もあり、選手にとってコンディションを整えるには厳しい環境でした。また、異国での慣れない食事や言語に心身ともに疲れたことと思います。しかしながら、中学生はそれらの壁をものともせず、堂々と試合をしていました。また、時には気さくに他国選手と談笑する姿も見られ、頼もしく思える場面もありました。

私自身も今回の遠征で、フェンシングの技術はもちろん、異国の文化にも直接触れることができました。この経験を、授業や部活動に還元していきたいとの思いを新たにすると同時に、この津久見高校から世界の様々な舞台で活躍する人材が輩出できるよう、さらなる努力を重ねていきたいと強く感じた遠征でした。



こんにちは
津久見高校です

イラストは、河久美彩さん
(普通科3年)の作品です。



津高生 One By One

松下玲菜・繁田香菜：総合ビジネス科1年、
軟式野球部マネージャー、
第一中・千怒小出身

今月は、総合ビジネス科1年生の松下玲菜・繁田香菜さんの登場です。2人は小学校1年生からの親友で、ともに12月生まれの子供好き。現在、軟式野球部マネージャーとして部員を支えながら、商業の資格取得に熱心に取り組む仲良し女子高生です。2人にインタビューしました。(松下さん:M、繁田さん:S、インタビュアー:I)

I: 野球部のマネージャーになろうと思ったのは……?

S: 父が野球をやっていたので、幼い頃から見に行く機会があって、いつの間にか野球が好きになっていました。好きな野球に関わっていきたくて思ったので、マネージャーをしています。

M: 私も、同じように弟が野球をやっていて、その応援に行っていたことがきっかけです。

I: マネージャーをやっていて、特に気を遣っていることは何ですか……?

M: はい、私は部員がどうすれば思いっきり練習ができるかを考えています。グラウンドが荒れていれば守備がしにくだろうし、ボールに泥がついていると特にピッチャーは投球しにくいし……。また、試合の時のスコアブックへの記入は、ミスが許されませんので緊張します。

S: 私は、選手への気遣いはもちろんですが、指導して下さる先生方や応援に来ていただいている保護者の方にも、いい気持ちでいられるように心がけています。たとえば、寒い日は温かいコーヒーを準備したりしています。



また、試合の時のアナウンスもマネージャーが行うのですが、選手の名前や番号を間違えないよう気をつけています。

I: 学習面では、資格取得に意欲的に取り組んでいると聞きましたが……?

S: はい。すでに簿記や情報処理の資格を6つ取得しています。

M: 1月から2月にかけて、毎週検定試験が行われていますので、全部合格するつもりで頑張っています。

I: ありがとうございました。部活に資格取得に頑張ってください。



本校のHP (<http://kou.oita-ed.jp/tukumi/>) にも情報が満載! アクセスしてください。